

平成25年度 第5回富里市教育委員会定例会議会議録

富里市教育委員会

- 1 期 日 平成25年8月27日(火)
開会 午後2時
閉会 午後3時25分
- 2 場 所 本庁舎3階第3会議室
- 3 出席委員 委 員 長 河 田 厚 子
委員長職務代理者 武 井 勝 彦
委 員 佐々木 浩 二
委 員 森 田 惠 子
教 育 長 國 本 與 一
- 4 出席職員 教 育 次 長 小 野 祐一郎
教 育 総 務 課 長 高 須 利 幸
学 校 教 育 課 長 滝 口 次 郎
学 校 給 食 中 心 所 長 大 木 正 吾
生 涯 学 習 課 長 榊 原 孝
図 書 館 長 根 本 優
- 5 事務局職員 教育総務課課長補佐 中 津 義 孝

平成25年9月24日

署 名 人

署 名 人

会議録作成人

1 委員長開会宣言

河田委員長 平成25年度第5回富里市教育委員会定例会議を開会する。

2 前回会議録の承認

平成25年度第4回定例会議会議録承認

(署名人：河田委員長，森田委員)

3 教育長報告

幼稚園・小中学校は夏休み中で、大きな事故などは起きてないが、小学校プールへの侵入やいたずらの被害がでており、誠に残念に思う。

・7月31日は、第1回学校給食センター運営委員会が開かれ、給食献立と食育の状況等について会議を行った。

・8月1日は、教職員夏季研修会及び教育講演会が行われ、市内の教職員が終日研修を行った。

・8月5日は、きょうざん塾が開校し、42名の小学生が参加した。また、多くのボランティアの方々にご協力をいただいた。

・8月23日は、第2回学校適正配置検討委員会が開かれた。

次回は10月3日に行われ、洗心小学校、富里南小学校、浩養小学校の視察を午前中に実施し、午後に会議を行う予定。委員の皆さまにも出席いただきたいと考えている。

・9月議会が今週の29日に開会、9月27日に閉会する予定。また、9月は中学校の体育祭、小学校・幼稚園の運動会が行われるので、委員の皆さまの御出席をお願いします。

4 教育委員報告

委員 8月1日の教育講演会に参加した。きっかわクリニック橘川先生による「学校不適応を起こす子どもの特性と対応について」という講演内容であった。事例をあげながら経緯と対処法などの貴重な話は、大変勉強になった。講演を聴いていた教職員方も大変参考になったのではないかと思う。講演を聴いていて、この不適応の問題は、各小中学校においてかなりの課題になっていると思った。その中で感じたことだが講演を聴くことも大事であるが、講演とは別に橘川先生を囲みながら各小中学校の先生方との懇談形式など、学校における現状を質問するなどのスタイルに変えた形で研修することができれば今後の不適応の問題について、より改善する手助けになるのではないかと思った。

河田委員長 7月27日、印旛郡市民体育大会の応援に行ってきた。バドミントンの1回戦の試合を拝見し、一生懸命頑張っている姿を見て素晴らしいと思った。総合成績が3位と結果もついてきて大変よかったと思う。

教育講演会に関し、補足する形でお話しをすると、橘川先生は以前に5年目以下の教職員研修のときに小さなグループでの講演があり、その中で細かく質問、意見をいただき対応していただいた。橘川先生に限らず、不登校の問題に関しての対応を丁寧にして、これからもそういった活動を進めていただきたいと思う。

5 議案

河田委員長 議案第1号から議案第2号までを一括で議題とする。提案者である國本教育長から提案理由の説明を求める。

國本教育長 議案第1号は、教育委員会の点検及び評価について、富里市教育委員会行政組織規則第8条第21号の規定により、教育委員会の議決を求めるものである。次に、議案第2号は、関東軟式野球連盟連合会が主催する会長旗第47回関東選抜軟式野球大会の後援について、教育委員会の議決を求めるものである。

よろしく審議の上可決されるようお願いする。

河田委員長 議案は個別に審議する。

(1) 議案第1号 平成24年度教育委員会点検及び評価（平成25年3月末時点）について（教育総務課）

教育総務課長 前回定例会議において、点検及び評価の内容を協議していただいたところであるが、外部知見者の意見を付して議案とするものである。外部知見者は、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長の笹井宏益氏に意見をいただいた。

<質疑等>

委員 平成24年度の点検及び評価は、前回の会議で充分協議した。平成23年度に指摘された評価の低い点については、A、Bがついており内容は結構であると思う。笹井先生の意見は、とみさと教育プランは改善すべき点もあるが、現代の子ども達を取り巻く環境に即しているなど時代にあった内容になっているというもので、ある程度高い評価を得て

おり、概ね満足すべき内容であると思う。

委員 学校教育の充実、学力の向上について、とみの国検定、きょうぎん塾の実施、研究指定による指導法の改善などで学力の向上を図っており、いい方向に向かってきている。今後は、家庭学習の充実と関連付ける工夫が各学校現場で必要であると指摘されているので、具体的に検討していかなければいけないと感じた。

信頼される学校とは、小中学校の連携が進展している地域に多く見られるという記載がある。実際に富里の場合も小学校と中学校でお互いに授業参観をするなどの交流をされていると思うが、もっと具体的に進めていかないといけないと感じた。

河田委員長 笹井先生には細かく評価していただいた。各課の問題、改善点について、今後の具体的な進め方、方法について指摘されているので参考にしたいと思う。

國本教育長 笹井先生には今回初めて評価をお引き受けいただき感謝している。本市の教育委員会が進めている内容について評価が高く、概ね良好といえるのではないかと思う。個別の内容に関する意見をいただき、今後の事業に生かしていく。

一例をあげると、学校教育の充実の中でスマートフォンについて、メディアリテラシー、情報モラルともいうがいじめ問題等にもかかわりがあることなので、引き続き、児童生徒保護者に啓発を行っていかねばならないと考えている。また、ふるさと学習の推進についても、さらに工夫をしていかねばならないと考えている。小中連携教育の推進については、後ほど案として示すので御検討いただきたい。

生涯学習については、事業の推進にあたりテーマ性を明確にしていくことを踏まえて各種事業を行っていかうと思う。文化資源の活用について、旧岩崎久彌末廣別邸の整備を推進し、早くお披露目ができるようにしていく。

<採決>

議案第1号は、賛成全員により原案のとおり可決した。

(2) 議案第2号 会長旗第47回関東選抜軟式野球大会開催に係る行事の後援について(生涯学習課)

生涯学習課長 千葉県野球協会会長から行事の後援申請があった。行事名は会長旗第47回関東選抜軟式野球大会である。会長旗というのは主催の関東軟式野球連盟連合会会長である。事業として、関東1都7県の競

技力向上と軟式野球の底辺拡大を目的としている。8都県の輪番制で行い、今年は千葉県が担当となっている。本市の中央公園野球場と佐倉市の長嶋茂雄記念岩名球場の2箇所を会場として、ポスターの名義使用と中央公園野球場の使用、会場使用料の減免を求めるものである。内容を審議したところ歴史がある大会で、社会体育の振興に資するものと判断できるので後援の承認を求めるものである。

<質疑等>

委員 是非、積極的に後援できればよいと思う。

<採決>

議案第2号は、賛成全員により原案のとおり可決した。

6 報告事項

(1) 平成26年度使用教科用図書採択結果について（学校教育課）

学校教育課長 前会議において特別支援学級で使用する教科用図書を富里市として採択をした。9市町で構成する印旛採択地区協議会において、9市町が同一の教科用図書を採択したことの報告である。

(2) 芸術鑑賞事業の結果について（生涯学習課）

生涯学習課長 芸術鑑賞事業として平成25年7月12日から28日までの15日間、中央公民館ロビーで絵画展を開催した。来場者数は、延べ人数3,126人であった。人数に加えていないが月曜日の閉館日に他の用事で来て鑑賞を希望された方にはご覧いただいている。アンケート調査において、絵画について賞賛する感想、展示場所がロビーであり施設として寂しい、照明に問題ありとの感想もあった。

絵画の展示の際は、先生に絵と絵のバランスをみていただき展示した。照明に関し、先生のご指摘は確認していないが、展示の機会をいただき感謝するとのお話をいただいている。

國本教育長 先生から2作品の寄贈を受けた。しかるべき所に展示したいと思っている。

河田委員長 作品については、市民の皆さまにみてもらえるところに飾っていただきたい。大変良かったので来年度以降も素晴らしい作品を鑑賞できるよう期待している。

(3) 第64回印旛郡市民体育大会の結果について（生涯学習課）

生涯学習課長 本市は、総合得点89点で8市町の中で第3位となった。優勝は、軟式野球、柔道、クレー射撃、準優勝は卓球女子、バスケットボール男女、剣道であった。去年は5位であったので入賞してよか

った。第63回千葉県民体育大会に優勝した柔道競技の選手が参加する。よい結果を期待している。

委員 柔道の監督として参加した。選手の平均年齢は21歳ぐらいで印旛郡市民体育大会に優勝することができたので、県民大会でも良い結果を残せるように頑張りたい。

(4) 月例報告（各課等）

河田委員長 報告事項について、各課等から報告願う。

教育総務課

- ・ 8月23日に第2回学校適正配置検討委員会を開催した。
- ・ 8月29日から9月27日まで9月定例議会が開かれる。
- ・ 次回の定例会は9月24日、給食を試食する予定である

学校教育課

- ・ 7月夏休みに入ってから引き続き教職員関係の研修を行っている。8月1日は、富里市教職員夏季研修会・教育講演会が行われた。午前中に6分科会にわかれ、午後からは不祥事根絶のための研修、橘川先生による講演が行われた。
- ・ 8月5日から9日まで5日間、きょうざん塾を実施した。市内8小学校から42名の申し込みがあり、平均して1日当たり37人ぐらいの参加があった。各学校で基礎的な学習が必要であると思われる子どもに対しては担任教諭が参加を勧めたため、学習意欲のある子ども達が集まったと考えている。指導者は25人の登録をいただき、1日当たり15人ほどで指導していただいた。子ども2～3人に1人と個別的な環境で指導できたと感じている。アンケート調査結果は、児童・保護者ともよかったという評価をいただいた。
- ・ 9月10日は校長会、13日は教頭会、7日に中学校3校の体育祭、21日富里小学校、28日は浩養小、根木名小、洗心小で運動会が行われる予定である。

國本教育長 補足をすると、きょうざん塾の申し込みは、実際の参加者より多数あり、選考の結果、参加した子ども達は42名であった。すべての希望にどう応えられるようにするかが課題である。

河田委員長 初めてきょうざん塾に参加した。ボランティアの先生と話をする機会があり、一生懸命指導してくださってありがたいと思った。子どもたちが元気よく来てくれる姿をみて今後も継続してほしいと感じた。教育長の話にもあったように申し込んだみんなが学べる状態になれば理想である。そのようになっていただきたいと思った。

学校給食センター

- ・ 9月2日から給食が開始となっている。

生涯学習課

- ・ 英語教育の推進事業，放課後子ども教室，創年セミナー，健康フェスタ，各種団体の事業協力などを今後予定している。

図書館

- ・ 9月20日～23日の4日間，夏休み特別映画会を行い63名が参加した。7月，8月は図書館が混み合っている状況である。

7 その他

(1) 図書館10周年記念事業講演会について（図書館）

開館10年を記念して，11月10日AVホールにて，耳で味わう平家物語～語りと波紋音～，朗読講習と講師によるパフォーマンスを行う。小学校5年生以上を対象に一般公募による予約（60名定員）を行う。また，1階児童コーナーで4歳児～小学校低学年を対象に波紋音のミニコンサートを予定する。

(2) 富里市ジョイントスクール構想（素案）について

國本教育長 笹井先生から信頼される学校づくりを推進するためには，小中学校連携の教育を進めることが大事であるとの指導があり，そういうことも踏まえた上で，これから富里市の小中連携をさらに発展させていきたいと考え，富里市ジョイントスクール構想を素案として提示する。検討をお願いします。

富里市では平成20年度に「とみさと教育プラン」を策定し，児童・生徒の発達段階を踏まえた小中学校の一貫した指導の継続性を図り，接続を円滑に行うことができるようにするため，中学校区ごとに連携教育を進めることとした。

これを受けて市校長会では，平成21年度から「小中連携の重点指導項目」を定め，共通指導の実践を継続している。具体的には，学校行事での交流活動，授業の相互参観等の取組が行われるようになった。しかし，中学校に進学してから不登校生徒が急増するなどのいわゆる「中一ギャップ」は解消されず，教育課程面での接続，小中学校教員の指導交流等の課題にも踏み込めない状況にある。「中一ギャップ」とは，勉強についていけない，部活動に積極的に参加しない，生徒指導上の問題が増えるなどを総称している。

富里市ジョイントスクール構想への移行について，ジョイントスクー

ルとは八戸市教育委員会の例があり、参考になる取組であり、この名称を使う。

ジョイントスクールとは、従来の小中連携の考え方をより発展させて、教育課程上の小中学校の接続を重視した学校運営を目指す考え方にある。具体的な例を示すと、小学校の英語活動を行っているが中学校に入っでの接続がうまくいかないとか、算数、数学においては段階的な指導が大事であるが、小学校でどのように指導を受け、どのような力を身につけてきたのか充分踏まえられず中学校の指導が始まるなど、教育課程上の接続を考えていくべきではないかということである。

そこで上記の課題を解消するとともに望ましい心身の発達を促進し、小中学校の円滑な接続を実現するためには3中学校区の在り方を明確にし、学園構想の考え方を基盤にして研究指定（北学園から）をすることで富里市の学校教育の充実が図れるものとする。

実際には富里北中学校～日吉台小学校のくくりを北学園、富里中学校～富里小学校、富里第一小学校、根木名小学校、七栄小学校のくくりを中央学園、富里南中学校～富里南小学校、浩養小学校、洗心小学校のくくりを南学園とし、イメージとして学園という呼び方をすることで小中連携をより一層図れるのではないかと考える。さらに望むところは保育園、幼稚園とのジョイントである。

具体的には、既に浩養小学校は幼稚園が併設されているので幼少連携を日ごろから意識した学校経営をしている。そのほかの小学校も近隣の保育園、幼稚園との交流を行っているので引き続き取り組んでいただきたい。さらにそれぞれの学校には学区があり、市で進めているまちづくり推進協議会の支援を受けて学校経営を進めていくことがよいであろう。既に富里第一小学校区まちづくり協議会が発足しているので、富里第一小学校は地域の支援を受けて学校運営を進めている。富里市の3学園がそれぞれ取り組んでいければよいと思っているが、一斉に始めることは、なかなか難しいことである。北学園は1小1中で取り組みやすい環境にあるので、2年程度を研究指定として課題や成果を踏まえて中央学園、南学園で取り組んでもらいたいと考えている。

ジョイントスクール推進の基本的な考え方について、現行の6・3制により義務教育9年間の一貫教育を行う。9年間で4年3年2年の3区分に分けて実践している学校もあるが、そうすると現行の6・3制の教育課程区分を組み直す必要があり難しさがあると考え、現行の6・3制を進める。既存の中学校区による学園体制で行うのを原則とする。心配されるのが将来的に児童生徒数がどうなるかであるが、現在の推計では

3 学園の中では大幅な減少はなく、当分の間、維持できる見込みである。

児童・生徒の活動交流を行う。小中学校教員の指導交流を行う。小学校の先生が中学校に行って授業を行う難しさはあるが、中学校の先生から小学校に行くことについては、まもなく中学校入学を迎える6年生に中学校の授業スタイルを指導することは可能であると考え。

児童・生徒に身につけさせたい3つの力、生きる力を育むということが学習指導要領の大きなスローガンになっている。その生きる力を富里市なりにどう解釈していくか、一つの案として生涯にわたる学習力、社会生活を送る人間力、健康生活を送る元気力などに置き換えて、それぞれの小中学校、3学園で共通して取り組んでいただくと、よりよい児童・生徒が育成でき、小中学校の先生方の人間関係が築けてよりよい指導ができるのではないかと考える。

あくまで素案でこれを元にして今後、学校教育課で考えていく。研究指定をするにあたり予算措置が必要であると考え、平成26年度の予算編成に向けて取り組んでいく。委員の皆さまに意見をいただき、よりよい内容のものを各学校に示していきたい。これらの取組としては、夏休みに入り、富里北中学校と日吉台小学校の校長先生に来ていただき、この素案について考えを示し、聞いたところ、既に取り組んでいる内容もあり、教育委員会の明確な姿勢が示されれば、是非取り組んでいきたいとのことであった。

河田委員長 大変興味深い構想であるのでそれぞれの委員から意見、感想をお願いします。

委員 小中一貫校の視察を行った際、スムーズに子ども達が学校に行けている状況を見て大変よいことだなと感じた。小学校で授業をしたり中学校で授業をしたり、先生方の負担などはあるか。

河田委員長 よりよく育てていくためには負担が増えていく、多少の負担は仕方がないと考え。

委員 実現ができれば大変素晴らしいことだと思う。宇治市などで実際に行われている。今の富里の指導体制の中で小中学校の先生が一緒に交流して研修を重ねていかなければ実現は難しい。その研修時間をどうやって確保していくのかが心配である。しかし、実際に小学校から中学校に子ども達を送り出すと、どうしてこうなってしまったのかということもあり、中学校側からみると小学校は一体どんな指導をしてきたのかという思いもあるのではないか。そのあたりの問題は、交流していく中で解決できると思う。できるだけ話し合える時間を無理なく確保して実現できる方向にもっていけたらよいと思う。

河田委員長 初めてのことで、これからやろうということについて色々な問題点があり、時間的な苦勞もあると思うが、全ての児童・生徒、子ども達が将来的に長いスパンで見て落ち着いて安定して、学習環境をよくするために大きく捉えると、最初の苦勞も安定するまでの一時的なものとする。まずは、モデル地区として北学園の名称で行っていくことはよいと考える。先生と子ども達の学校側でなく、PTAをやっていたころ小中学校の連携としてPTA懇談会を開き、部活動見学、行事などに子ども達を連れて行ったりなどのパイプ役をしていたのでPTAでも側面からお手伝いができるのではないかと思った。

委員 この構想は、積極的に推進していくべきだと思うがいろいろと問題点もあるのではないかと思う。北中学校に行くと生徒を見ているが、中学校全体が和気あいあいとした雰囲気であったと感じており、同じように中央学園、南学園として連携していければ学校問題がかなり軽減されていくのかなと感じる。実際、小学校1年生から中学校3年生までひとつの校舎に入れればよいのだが不可能であると思う。

児童・生徒の活動交流とは具体的な例、構想はあるか。

國本教育長 例えば北学園で既に行われていることは、中学校の合唱コンクールに小学生が参加して、中学生の歌の素晴らしさを聞いて自分達も中学校に行こうという発表ができるようになるのだと前向きな気持ちで中学校に入学できるなどである。

河田委員長 構想であるので少しずつ前向きに捉えて、改善をしながら進めていくこととする。

8 委員長閉会宣言

河田委員長 以上で、平成25年度第5回富里市教育委員会定例会議を終了する。